

農業技術情報

平成23年7月1日
ゆとりみらい21推進協議会指導部会

十勝農業改良普及センター十勝東部支所
015-572-3128
JA 幕別町 54-2302
JA 札内 56-2131
日甜東部センター 54-2756
幕別町農林課 54-6605

各作物の生育・作業の状況（幕別町 7月1日）

（ ）内は平年値

作物名	生育良否	生育状況	作業状況
秋まき小麦	並	稈長 87.5(85.8)cm 穂数 855(750)本/m ² 穂長 9.4(9.2)cm	
馬鈴しょ	並	茎長 39.7(44.0)cm 開花期 7/1(7/1) 茎数 3.8(3.8)本	
てん菜	並	草丈 45.1(39.3)cm 葉数 19.1(17.6)枚 根周 15.6(15.4)cm	
大豆	並	草丈 14.3(15.6)cm 葉数 3.0(3.0)枚	
小豆	並	草丈 5.6(5.1)cm 葉数 2.0(1.8)枚	
金時	並	草丈 16.0(17.4)cm 葉数 2.2(2.3)枚	
牧草	並	草丈 8.3(10.1)cm	収穫期 6/21(6/23)
飼料用とうもろこし	やや良	草丈 66.6(51.2)cm 葉数 8.6(7.6)枚	
ごぼう	並	草丈 15.4(20.3)cm 生葉数 2.6(3.4)枚	
たまねぎ	やや不良	草丈 51.6(64.5)cm 葉数 5.5(6.2)枚 葉鞘径 10.5(14.4)mm	

畑 作

1 秋まき小麦

(1) 赤かび病

病原菌の胞子は降雨後、活発に飛散します。天気予報を参考に防除してください。

防除時期	農薬名	使用濃度	使用基準
3回目 (2回目の7~10日後)	ストロビーフロアブル	2,000~3,000倍	収穫14日前・3回以内
臨機(登熟期間)	チルト乳剤25	1,000~2,000倍	収穫3日前・3回以内

(2) アブラムシ類

アブラムシの防除は、1穂あたり7~11頭程度の寄生(寄生穂率45%以上)が目安となります。

病害虫	農薬名	使用濃度	使用基準
アブラムシ類	パイオフME液剤	2,000倍	収穫7日前・2回以内

2 馬鈴しょ

(1) 疫 病

東部支所管内で、馬鈴しょ疫病の初発を確認しました。

開花期以降は冷涼多湿な環境や茎葉の繁茂で発生しやすく、降雨による病原菌の飛散は急速なまん延をもたらします。発生前、早めの予防的な防除を徹底してください。

病害名	防除時期	農薬名	使用濃度	使用基準
疫 病	7月上旬	リライアブルフロアブル	800 倍	収穫 7 日前・3 回以内
	7月中旬	フロンサイド水和剤	2,000 倍	収穫 14 日前・4 回以内

各薬剤成分の総使用回数を遵守し、ローテーション防除を心がけてください

(2) 軟腐病

軟腐病は、7～8月の高温多雨な条件を好み、例年7月上中旬ごろから発生がみられます。1回目の茎葉散布は、初発（小葉の発病）後、直ちにおこなってください。

病害名	防除時期	農薬名	使用濃度	使用基準
軟腐病	7月上旬	スターナ水和剤	1,000 倍	収穫 7 日前・5 回以内
	7月中旬	バクテサイド水和剤	1,000 倍	収穫 7 日前・5 回以内

各薬剤成分の総使用回数を遵守し、ローテーション防除を心がけてください

オキシリニック酸を含む農薬の総使用回数は5回以内(スターナ、マテリーナ、カセット)

ストレプトマイシンを含む農薬の総使用回数は5回以内(バクテサイド、マテリーナ、銅ストマイ、アグリマイシン)

(3) ナストビハムシ・オオニジュウヤホシテントウ

ナストビハムシの発生が散見されますので、発生に応じて防除をおこなってください。

病虫害	農薬名	使用濃度	使用基準
ナストビハムシ	ルビトックス乳剤	1,000 倍	収穫 30 日前・5 回以内
オオニジュウヤホシテントウ	デナボン水和剤 50	1,000 倍	収穫 7 日前・3 回以内

3 豆 類

菜豆類を中心に、初生葉に白～灰色・褐色の斑点が散見されます。これは、高温により地上部の生育が旺盛になった結果、根の生育が追いつかないために発生する生理障害です。

根を傷めないように培土をしっかり行い、発根を促してください。

(1) 中 耕

中耕には、除草効果と土壌水分調節効果があります。

作物の生育に応じて培土も組合せ、根系の発達を促しましょう。

- ・生育の初期段階では「広く・浅く」、作物の生長とともに「狭く・深く」する
- ・開花期近くでの中耕は、断根による落花・落莢の原因となります。中耕作業は、開花の7～10日前までに終わらせてください

(2) 菜豆類（金時）の追肥

生育および地力の劣るほ場では必要に応じて追肥をおこなってください。

追肥時期	備 考
第2本葉展開期～開花始 (6月下～7月上)	追肥窒素量は5 kg/10a を上限とします 葉落ちの悪いほ場では、追肥量を減じます

(3) 小豆、手亡の炭そ病

発生が認められたら早期に防除しましょう。「雪手亡」「絹てぼう」は、炭そ病抵抗性を持つ品種なので防除は不要です。

病害名	農薬名	使用濃度	使用基準
炭そ病	トップジンM水和剤	1,000 倍	小豆：収穫 14 日前・4 回以内 手亡：収穫 7 日前・4 回以内
	フロンサイド水和剤	1,000 倍	小豆：収穫 21 日前・3 回以内 手亡：収穫 14 日前・3 回以内

チオファネートメチルを含む農薬の使用回数は4回以内(トップジン、ゲッター、プロードワン)

(4) 小豆のマメアブラムシ

局所的に多発生する特徴をもつので、ほ場を観察して寄生を確認したらすぐに防除してください。

病害虫	農薬名	使用濃度	使用基準
マメアブラムシ	ベイオフ ME 液剤	2,000 倍	収穫 7 日前・3 回以内
	モスピラン SL 液剤	4,000 倍	収穫 14 日前・3 回以内

(5) 小豆の茎疫病

連作ほ場や排水の劣る場所で発生することがあります。予防的な防除を心がけてください。

病害名	農薬名	使用濃度	使用基準
茎疫病	フェスティバルC水和剤	600 倍	収穫 7 日前・3 回以内
	ランマンフロアブル	1,000 倍	収穫 7 日前・3 回以内
	レーバスフロアブル	2,000 倍	収穫 7 日前・2 回以内

フェスティバルC水和剤は、水量 100～300 ㍓/10a で散布します

(6) 大豆のべと病

開花始に上からのぞき込んで、葉の全面に病斑がみられたら防除が必要となります。特に、黒大豆では病斑がみられない場合でも、開花期に1回は防除を行ってください。

病害名	農薬名	使用濃度	使用基準
べと病	プロポーズ顆粒水和剤	1,000 倍	収穫 21 日前・2 回以内
	フェスティバルC水和剤	600 倍	収穫 7 日前・3 回以内

フェスティバルC水和剤は、水量 150～300 ㍓/10a で散布します

(7) 金時のかさ枯病

子葉展開期から 10～15 日間隔で 2～3 回防除してください。

病害名	農薬名	使用濃度	使用基準
かさ枯病	ドイツボルドーDF	500 倍	(銅水和剤)
	コサイド DF	1,000 倍	(銅水和剤)
	カスミンボルドー	1,000 倍	収穫 30 日前・3 回以内

粉衣用ペアーカスミン、カスミンボルドーは総使用回数で3回以内

4 てんさい

畦がふさがってきています。中耕作業で茎葉を傷めたり、株元に土を寄せたりしないよう注意しましょう。

(1) 根腐病

まだ防除していない場合は7月上旬までに防除しましょう。

病害虫名	薬剤名	使用濃度	散布水量	使用基準	防除効果
根腐病	リンバー顆粒水和剤	4,000倍	200ℓ	収穫7日前・3回以内	予防・治療

(2) ヨトウムシ(カメノコハムシ)

例年より早く産卵・ふ化を確認しています。必ず防除しましょう。

病害虫名	薬剤名	使用濃度	散布水量	使用基準
ヨトウムシ (カメノコハムシ)	ペイオフME液剤	2,000倍	100ℓ	収穫14日前・4回以内

(3) 褐斑病(主に連作ほ場対象)

病害虫名	薬剤名	使用濃度	散布水量	使用基準	防除効果
褐斑病	グリーンダ'イソM水和剤 グリーンパ'ソセブ'水和剤	500倍	100ℓ	収穫30日前・5回以内	予防

ヨトウムシ・褐斑病の防除期間は6月25~30日です。

野 菜

1 キャベツ・はくさいのコナガの発生に注意

6月下旬のコナガ飛来成虫頭数が280頭と高くなっていますので、ほ場を良く観察して発生初期の防除を的確に行ってください。

2 キャベツ・はくさいの高温時定植の注意点

高温・乾燥傾向が続いているため、移植時にほ場が乾燥な場合は、定植後にかん水を行ってください。

3 キャベツ

(1) コナガの成虫が多く見られますので、初期の発生を抑えるために定植時の防除を徹底して下さい。

(2) 病害虫防除例

防除時期	薬 剤 名	使用濃度	水量	安全使用基準		対象病害虫
			リットル 10a /トレ	使用時期	回	
定植時	ジユルホフロアブル	200 倍	0.5ℓ /トレ	育苗期後半 ～定植当日	1	アブラムシ類 コナガ・アムシ
定植20日目	エスルク DF (B T 剤)	1,000 ~ 2,000 倍	120	発生初期但 し収穫前日	4	コナガ・アムシ
定植30日目	スプレース顆粒水和剤	2,500 ~ 5,000 倍	150	3 日前	3	コナガ
定植40日目 (結球始め)	アファム乳剤	1,000 倍	150	7 日前	3	コナガ
定植50日目	ビセク外水和剤	1,000 倍	150	7 日前	3	コナガ

『 B T 剤と葉面散布剤の混用』は、効果が劣るので使用しないで下さい。

4 はくさい

(1) 病害虫防除例・・・今後、軟腐病の発生に注意が必要です。

防除時期	薬 剤 名	使用濃度	水量	安全使用基準		対象病害虫
			リットル 10a /トレ	使用時期	回	
定植時	ジユルホフロアブル	200 倍	0.5ℓ /トレ	育苗期後半 ～定植当日	1	アブラムシ類 コナガ・アムシ
定植20日目	マッチ乳剤	2,000 倍	150	7 日前	3	コナガ・アムシ 軟腐病
	スターナ水和剤	1,000 倍		14 日前	3	
定植26日目	ペイワ ME 液剤	1,000 倍	150	21 日前	4	アブラムシ 軟腐病
	アグリマイシ 100	2,000 倍		14 日前	5	
定植32日目	プレオフロアブル	1,000 倍	150	7 日前	2	コナガ・アムシ 軟腐病
	バリアンシ液剤 5	500 倍		3 日前	3	
定植38日目	ハクサップ 水和剤	1,000 倍	150	前日	5	コナガ・アブラムシ

5 レタス

軟腐病の発生と菌核病による株枯れが見られます。今後、軟腐病や腐敗病の発生に注意が必要です。

(1) 病害虫防除例

防除時期	薬剤名	使用濃度	水量	安全使用基準		対象病害虫
			リットル/10a	使用時期	回	
定植時	ジュボフロアブル	200倍	0.5ℓ / トレ	育苗期後半 ～定植当日	1	アブラムシ類
定植10日目	ビスタ化水和剤	400倍	100	14日前	3	べと病・腐敗病
定植14日目	トイボルト-A	1,000倍	100			腐敗・軟腐病
定植21日目	ダントツ水溶剤	2,000倍	150	3日前	2	アブラムシ類
	スターナ水和剤	2,000倍		14日前	2	腐敗・軟腐病
定植28日目	ハチハチ乳剤	1,000倍	150	3日前	2	アブラムシ類
	バリアン液剤5	800倍		7日前	3	腐敗・軟腐病

トイボルト-Aでは、薬害軽減のためにクワノ200倍を加用して下さい。

6 だいこん

6月下旬から収穫が始まりましたが、一部で抽台株が見られます。また、キスジノミハムシ・コナガの発生が多くなっていますので注意が必要です。

(1) 病害虫防除例

防除時期	薬剤名	使用濃度	水量	安全使用基準		対象病害虫
			リットル/10a	使用時期	回	
は種時	ラビ-MC粒剤	20kg/10a		は種時	1	キスジ・センチュウ
	又はフォース粒剤	4kg/10a		は種時	1	キスジノミハムシ
20日目	エルサン乳剤	1,000倍	100	30日前	2	キスジノミハムシ
	バシタック水和剤75	1,000倍	100	21日前	3	亀裂褐変症
25日目	アグロリン水和剤	1,000倍	100	7日前	5	コナガ・アブラムシ 軟腐病
	Zボルドー	500倍	100			
30日目	ハチハチ乳剤	1,000倍	120	14日前	2	コナガ・アブラムシ
	スターナ水和剤	1,000倍	120	21日前	3	軟腐病

Zボルドーでは、薬害軽減のためにクワノ200倍を加用して下さい。

7 ながいも

(1) マメコガネ・ヒメコガネの発生

例年、7月頃から発生しますのでほ場をよく観察して下さい。

食害のあるほ場では、アブラムシ類防除による合成ピレスロイド系剤のアディオン乳剤、マブリック水和剤20のいずれかを使用して下さい。

(2) 分肥の施用時期

分肥は7月下旬までに終わらせ、生育後半の登熟を図って下さい。

8 ごぼう

(1) 2回目の分肥・中耕

緩効性肥料を使用していないほ場で、本葉3～4期に達しているほ場では肥料S 4 4 4 (N:P:K14:4:14)を10a当たり30kg施用し、除草を兼ねて中耕を行います。

(2) ハマキムシの防除

食害が見られますが生育に影響がないため防除する必要はありません。

9 たまねぎ

(1) 生育状況

生育は平年と比較すると2日程度の遅れとなっています。

白斑葉枯病やネギアザミウマの発生も増加傾向にありますので、今後、防除を徹底して下さい。

(2) 生育障害について

急激な高温により葉先枯れ症状が見られるようになりました。

葉先枯れ症状は、根張りが弱く葉の蒸散が激しくなると急激に発生します。

対策として、かん水が可能な場合はかん水を実施して下さい。

また、球肥大前に硝酸カルシウムを20kg/10a施用して下さい。

農作業に「あせり」は禁物！ 心に余裕を！！

機械のトラブル、整備点検のときはエンジンを停止する！
(はさまれ・巻き込まれ事故防止)

機械の乗り降り、飛び降り・飛び乗りをしない！
(落下事故防止)

7月も暑い日が続くことが予想されます。

塩分・水分を十分に補給して、

適度に休憩をとるように心がけてください。

